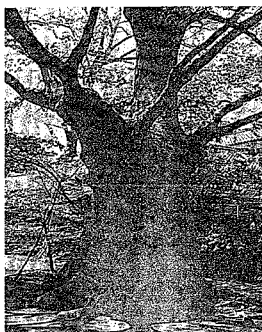


新津の巨樹・名木①



真柄家の大けやき
(柄目木)

真柄家の大けやきは、樹齢約800年と推定されています。主幹内部は広い空洞になっており、樹高はやや低いのですが樹勢は旺盛で、枝葉を四方に広げています。樹の下は昼でも薄暗い感じがします。

かつては天を覆うような巨大な樹木でしたが、新津の石油産業が最盛期の頃、製油所から排出される亜硫酸ガスのために上部が枯れ、現在の姿になりました。けやきは庭木の王者として広く親しまれていますが、この大けやきは市内に数ある巨木の中でも最大のもので、県内に所在する大けやきの中でも上位に数えられるものです。真柄家の大けやきは、歴史の生き証人とも言える大切な緑の文化財です。

(樹高16m、目通し幹周7.8m、平成5年)
(1月に市の文化財に指定されました。)

新津市の人口

男	31,836 (+ 25)	
女	34,201 (+ 11)	2月28日現在
計	66,037 (+ 36)	()内は前月比
世帯数	18,540 (+ 27)	

2月中の動き

出生	34	死亡	43	転入	143
転出	98	結婚	13	離婚	3



ときのことです。肝心の山はあいにくのガスで、天狗の庭の手前で引き返してきました。帰ってくる途中、山腹の露天風呂に入っている人の姿が小さく見えました。あたりには一本の木もなく、赤茶けた山肌のそこそこ、硫黄くさい煙が立ち昇り、すさがひと薫、ふた兼あるだけで

このバトンを北上一の樋口よねさんにリレーします。

と、思ってみる春の夕暮れなのです。今年はどんな感動にめぐり会えることでしょう。

大谷久美(秋葉1)

感動とのであい

空がスミレ色に晴れあがると、無性に山を歩きたい気分になります。ここ数年誘われて山歩きを始めました。自然にとけこんだときの開放感、何とも言えない気分、また時には思いがけない感動にめぐり合うことができます。五、六年前、蓮華温泉に行った

「今、私は大空の下に、大地を踏みしめて立っている」と。あの感動はいったい何だったのだろうと、今思い返してもよく分かりません。人間の体の中には、もしかしたら遠い昔の人類の記憶が、細胞のどこかに眠っているのではないで

しょうか。だから今、一番自然に大空の下で、裸身に展れる露天風呂がブームなのではないか……などと、

随想

(251)

*このコーナーは、寄稿者が次の寄稿者を紹介して随想をリレーしていくコーナーです。



お買物、ご用命は市内で



春の文化講演会

- とき…4月17日(土)
午後1時30分開場
- ところ…視聴覚センターホール

※当日、聴講者に資料を配布します。

- 講「良寛さんとの出逢い」
大矢良廣氏 (良寛の里美術館運営委員)
元新潟日報論説委員
- 演「桂家と良寛の兄弟」
谷川敏朗氏 (良寛研究家)

主催・新津地域文化を考える会 後援・新津市、市教育委員会、市商工会議所、本町附近社